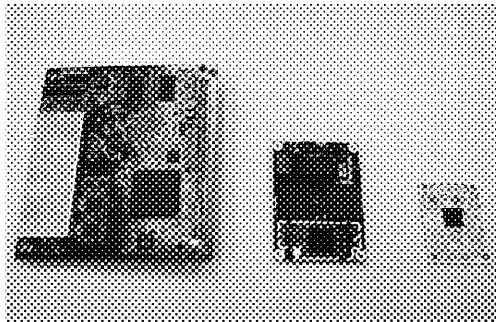


マゼランシステムズジャパン

マゼランシステムズジャパン（兵庫県尼崎市、岸本信弘社長）は、全球測位衛星システム（GNSS）によって高精度な位置情報の測定を可能とした小型受信モジュールを開発し、9月を目標に出荷を開始する。専用のASIC（特定用途向けIC）の開発によって現行モジュールから大幅に小型化。量産出荷時には価格も2万円程度まで引き下げることで、用途の拡大につなげたい考えだ。

記念切手大、低コスト



マゼランシステムズは、日本の準天頂衛星「みちびき」など世界中のGNSS衛星からの信号をマルチ受信し、数センチの誤差で高精度測位を可能とする受信機。同社では2017年に10センチ

マゼランシステムズジャパンが開発した受信モジュールの小型モジュール

これにより現行モジュールでは15万円程度の価格を、大幅に引き下げる事が可能となった。まずはASICを数百個試作し、さまざまな分野で評価を始める。23年には1万台程度、24年には10万台程度の出荷を目指す。

同社の受信モジュールは、これまでトラックターの自動運転などで採用実績があるが、小型化と量産化によって

GNSSで高精度測位

小型受信モジュール開発

マゼランシステムズは、日本の準天頂衛星「みちびき」など世界中のGNSS衛星からの信号を

高精度の評価ボードを、19年には名刺大よりやや小さなサイズのモジュールを製品化。さらに主要機能をASICに統合したことで、30mm×40mmという記念切手大にまで小型化した。

これにより現行モジュールでは15万円程度の価格を、大幅に引き下げる事が可能となった。まずはASICを数百個試作し、さまざまな分野で評価を始める。23年には1万台程度、24年には10万台程度の出荷を目指す。

同社の受信モジュールは、これまでトラックターの自動運転などで採用実績があるが、小型化と量産化によって

コストを引き下げ、個人が利用できる用途開発を狙う。例えば、歩道の段差などの位置情報まで把握しながらガイドする視覚障がい者向け電動車いすなどを想定している。